

## 第2回 ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会 議事要旨

【日時】平成29年9月21日（木）13：30～16：00

【場所】厚別区役所2階A会議室

【委員】11名

所属/肩書	氏名（敬称略）
あつべつ区民協議会代表 （札幌市子ども会育成連合会厚別区支部長）	田中 昭夫
あつべつ区民協議会運営委員長・厚別のにぎわい検討委員会委員 （北星学園大学 経済学部教授）	鈴木 克典
厚別区ふれあい推進会会長 （厚別南町内会連合会会長）	牧野 弘志
厚別区庁内連合会連絡協議会会長 （厚別中央町内会連合会会長）	樋田 並久
札幌市青少年科学館管理課長	鱈水 憲一
(株)札幌副都心開発公社 取締役総務部長兼財務企画部担当部長	川尻 寿彦（欠席）
厚別中央地区 子育てサロンピーちくパーク代表	西根 由美子
厚別南地区 子育てサロンぼろキッズ代表	木村 和香枝
新さっぽろ冬まつり企画会議代表/あつこい実行委員会委員 区民まつりへのご協力（厚別南町連）	波多野 達郎
北星学園大学 経営学部経営情報学科4年	片山 由貴
北星学園大学 経営学部経営情報学科4年	村上 舞

事務局	
厚別区市民部総務企画課長	國島 徹
厚別区市民部地域振興課長	佐久間 聖子
厚別区土木部維持管理課長	桑島 健

## 【議事・進行】

### 1. 第1回あり方検討委員会の振り返りについて

- 事務局より、資料2・資料3・資料4の説明

### 2. G・I街区開発の現況について

- G・I街区開発予定事業者より、資料5について説明
- 質疑応答

#### 【質疑応答の記録】

(委員)

- ・当地区のエリアマネジメントについて、どういう形で関わっていくかなどの考えはあるか。

(事業者)

- ・検討中である。母体を法人格にするなどは未定であるが、持続可能な運営となるよう地域の方と連携していきたい。

(委員)

- ・現在はG街区から地下鉄に向かうには地上の道しかないが、地下鉄1番出口からG街区側にコンコースを延長し、地下道を作ることは考えているか。

(事業者)

- ・計画はない。現状の公園内にある出入口をそのまま活用したい。そのためG街区から地下鉄へのアクセスは地上レベルという考えである。

(委員)

- ・資料5、2枚目の地上レベルネットワークの点線（紫）は、新たに道をつくるということか。

(事業者)

- ・新設ではなく、現状ある道と接続したイメージを意味している。
- ・本日は、提案段階の我々の案を持ってきたため、あくまで再整備内容を検討するにあたり、参考としてほしい。また、資料5のP.3のプロムナードのパスは、公募の提案段階で、魅力的と思い自由に描いたイメージになっているので、検討の一助としてほしい。

(委員)

- ・キャンパスプロムナードは、道路を横断するという意味か。
- ・地上レベルネットワークのG街区と公園の間に道路があると思うが、渡ろうと思うと危険である。安全に渡る方法は考えているか。

(事業者)

- ・道路をまたぐイメージとなっている。
- ・あくまでG街区の提案にとどまらず、公園側にもキャンパスプロムナードがあればより魅力的なまちになると考え、それにつながる動線のイメージとして提案してい

る。

- ・北海道警察や行政と協議調整中であり、引き続き安全に通れる方法を検討していきたい。

(委員)

- ・図書館などの地域の方の利用を考えると動線は大事になってくる。利用する地域の声は非常に大きいと思うので、地域と連携して訴えていくことも必要だと思う。

(事業者)

- ・我々もそう思っている。G 街区に設立される機能が、地域に対してどのように貢献できるかを考えており、キャンパスの機能を開放して地域に溶け込んでやっていきたいと思っている。地域や大学と密に連携して解決していきたい。

(委員)

- ・事業者からの一方的な説明だけでなく、地域の人も巻き込んで一緒に考える場が必要ではないか。

(事業者)

- ・そういった場はこれから考えていきたい。本日がそのきっかけとなれば良い。

### 3. 現地視察（ふれあい広場・科学館公園）

- 視察に先立ち、事務局より資料 6 及び資料 7 を説明
- 委員長より、「にぎわい検討委員会」委員として資料 8 を説明
- 現地視察実施

### 4. 望ましい利活用方法を中心とした意見交換

#### 【意見交換の記録】

(委員)

- ・アンケート調査のまとめを見る限り、イベントや子どもの見守り、憩いというキーワードが出ていたと思う。それに沿った形で、樹木の配置や遊具の設置などを検討できると良い。

(委員)

- ・資料と現地視察より、トイレ周辺の鬱蒼とした森は、上手く木を切れば改善できると思っていたが、現地を見ると緑を残したいと感じた。森として整備していけば良いのではないか。
- ・若い人に関しては、G 街区に教育施設ができることにより増加することが予想されるため考慮しなくても良いのではないか。  
子ども、お年寄りが安心して過ごせる空間となるよう、ターゲットをしぼって考えた方が良いのではないか。

(委員)

- ・緑が大切であるという思いは同じだが、老木の処理については町内会でも問題となっている。樹齢がある程度いった老木は、このような機会を利用して伐採し

整理できると良いのではないか。

(事務局)

- 科学館公園の樹木についてはこれまで手を入れていない。樹間がせまいこともあり、環境としてはあまりよくない。
- 残すものは残し、状態の悪いものについては整理しなくてはいけないと感じている。

(委員)

- 10年20年と長い目で見たときに整理が必要だと思う。樹間があまりないということもあわせて考えていきたい。
- 木漏れ日があると、休憩場所や憩いの場所につながるため、ある程度は残しつつ、「緑豊かな空間」というイメージを損なわないように整備したい。
- 子どもの安全を考えると、木の上より下の部分の整理が必要なのではないか。下に物があると、隠れたり、外から見えなくなったりするため、通行に危険や恐さを感じる。樹間と枝の下の部分を芝生の整理とともに見直し、見通しの確保やゆとり空間の整備につなげていければ良いのではないか。

(委員)

- 芝生にするためには、伐採して、切り株を掘り起こさないといけないと思うが、技術的には可能か。

(事務局)

- 芝生の生成には、光が当たる空間をしっかりと確保しなければならないことから、相当な伐採が必要となる可能性がある。また、樹木と芝生を共存させるのであれば相当な工夫が必要である。
- 切り株を埋める考えもあるが、土地の高低差があるため難しい。木の成長から見て、移植も難しいのではないか。
- 残る樹木はそのまま、例えば柔らかいアスファルトをひくなどの手法で整備することは可能だと思う。

(委員)

- パーゴラの骨組みの鉄骨は、予算の問題もあると思うためできるだけ現状のものを活かす方向で考えていきたい。メンテナンスは必要であると思うが、今あるものを活かしたい。
- 公園の舗装が劣化しているが、綺麗に残っている部分は活かし、悪い部分のみ整備するなど、あまりお金をかけないやり方を考えるべきである。

(委員)

- ステージも、舞台をきれいな色に変えれば雰囲気も変わり、きれいになったと感じるのではないか。

(委員)

- 現在の色は何かの景観色を意識しているのか。色を変えとしても、背景などとマッチした色にできると良い。市が取り決める景観色もあると思うが、自由にデザインできそうか。

(事務局)

- ・現状の緑色は、特に何かを意識したものではない。市が取り決める景観色はあるため確認は必要だが、広場、ステージの規模からして特に問題はないのではないかと  
思う。

(委員)

- ・人が来ることがまず大事なのではないか。緑も大事だが、人が集まり、利用されて初めて成功だと思う。

(委員)

- ・先日、小学生が科学館公園で絵を描いていたが、お弁当を広げるスペースがあまりなく、狭いスペースに集まっていた。そういった光景を見ると、科学館にくる小学生なども、くつろげるスペースがあれば良いと感じる。

(委員)

- ・厚別競技場の外周部分は、木や芝生が整備された空間になっている。ただ、木の下にたまる人はあまりおらず、芝生で休んでいる人が多い。木は必要だと思うが、点在している木が必須かどうかは疑問である。たまり場と木のスペースが住み分けされていると良い。

(委員)

- ・ゾーニングをしてメリハリを付けることも重要かもしれない。

(委員)

- ・現状だと、動線の中に木があるが、もっとすっきりさせたい。

(委員)

- ・噴水は夏場とても利用されている。周辺にテントを張るなど、利用に際してもっと工夫できるのではないか。

(委員)

- ・子育て世代にとって、学校終わりに過ごす場所が求められているため、それを考慮した整備が必要ではないか。管理する人が必要になるかもしれないが、安心して過ごせる場所があると良い。

(委員)

- ・管理者は行政というわけにはいかないかもしれないが、そういった場所もあると良い。

(委員)

- ・G・I街区の開発に携わる事業者なども視野に入れながら、管理者を置き、料金を払って使える空間としてはどうか。より持続的に運営できるのではないか。

(委員)

- ・今後、料金を徴収するイベントが増えてくることを考えると、維持管理などがしやすい方法を検討していかなければならないのかもしれない。

(委員)

- ・アンケート結果より、広場でのイベントや科学館公園の存在を知らなかったという意見が多く驚いた。

(委員)

- 先日、まちあるきのイベントがあり自分のまちを歩いたが、はじめて知ることもあった。自分のまちですら、歩いてみないと気付けないことがある。

(委員)

- 我々は広場・公園を注目している立場であるが、「きっかけ」がないと知らないこともある。
- 今まで利用したことのない人に注目してもらえる魅力的なイベントなどで「きっかけ」を与えることが重要である。

(委員)

- 子育て世代も大事で、高齢化も進んでいるためお年寄りも大事にしないといけない。若い人たちは順応性があり、空間を上手く利用できると思うため、「子ども」「お年寄り」そして「憩い」が重要なキーワードではないか。
- そういった目的を明確にしつつ、遊具があると来たいという意見が多かったため、遊具を整備するといった検討をしたい。
- 個人的に、公園内にあるトイレは利用しない。低学年の子どもには怖くて行かせられない。  
キラキラ広場の近くにトイレがあると良い。見通しが良いと利用しやすいと思うが、実際に公園のトイレを使っている人を見たことがない。
- 青少年科学館の駐車場の西側の森は、学生たちの動線にもなり得る場所であるため、それも踏まえるとトイレ周辺は少しすっきりさせることが必要である。

(委員)

- 様々な目的のスペースが混在しており、それが明確でないため立ち寄る人が少ないのではないか。目的別のゾーニングが必要である。
- 大きな空間の中で小さな空間の区割りを意識することで、多様性の中でも明確な目的意識を持って来てもらえるのではないか。
- 現状の広場・公園の動線は、学生がG街区に向かうには通りづらいと感じる。自転車を利用する学生もいると思うので、広場の安全面なども考えていかなければならない。

(委員)

- G街区に駐輪場をつくる予定はあるか。
- G街区の自転車があふれてしまうと、キラキラ広場の駐輪場に停めることも出て来ると思い、そうなるとマナーの問題など悪影響があるのではないか。
- 学生の使う交通機関や動線を踏まえて考えなくてはならない。

(委員)

- 今の価値観にひっぱられてしまうため、現在の土地に何も無いことを前提とし、何が必要かを考えてはどうか。
- 今は除雪が入れない公園部分があったりする。遊具や何かしらの整備を行う際には、例えば簡易に取外して空間を生み出せるなど、「汎用性の高さ」「空間の確保」を意識したい。

(委員)

- 利活用ということを前提にしているが、「にぎわい」「子育て」「憩い」といったキーワードとそれに必要な機能を考えたとき、今あるもので何が一番活用されていないかと考えると、森のスペースである。イベント広場、噴水の機能は残したい。加えて、駐輪場などがどう活用できるか、キーワードを軸に取舍選択していかなければならない。
- 防災の話もあったが、広場はどう活用できるか示されていない。避難所を想定した時にトイレは大事になってくるため、下水管が入っているかなどの確認が必要である。
- また、広場は水はけが悪いという話があるが、排水の整備が足りていないなど、一つ一つ検討していくべきである。
- 南区の真駒内公園では、樹木が科学館公園より大きく、倒れたりしている。木が古くなっており、子どもがグループで来ると危険ではないかと感じたことがある。青少年科学館でも同じように感じることもあり、先日台風がきた時、科学館を臨時で閉館とした。科学館は子どもの施設で、休日は親子、お年寄りが多い。今後付加されるのが若者で、それに対応した広場・公園の整備が必要である。広いようで狭いのかもしれない。

(委員)

- 先程、現地視察の際に、科学館公園のモニュメント付近に高校生がいたが、写真を撮るためにいた。学生の視点から言うと、最近は写真を撮るスポットが若者に人気であることから、そのようなスポットを整備して若者の足が向くようにするのも面白いと思う。
- 今後ステージ利用率の上昇を目指すのであれば、常設屋根が良いのではないか。

(委員)

- そもそもステージが仮設テントというのはめずらしいと思うが、理由があるのか。
- 吹奏楽をやるときには天井高があれくらいあると良いと聞いたことがある。仮に常設になって天井高が低くなれば、不便を感じる人もいると思う。

(委員)

- 広さも含め、ステージの仕様には検討の余地がある。

(委員)

- ステージ地下はどのくらいの大きさか。

(事務局)

- 端的に言うと、ステージ部分の下が全て地下室の大きさと捉えていただいて良い。

(委員)

- 地下室は、場合によっては控え室などにできるかもしれない。

(委員)

- 現在は雑然としているが、それらを取り払うと広くなり、改善の余地があると思う。

(委員)

- 区民まつりではライブステージを見に来た。しかし、自分が訪れていたのは実はサンピアザの広場のステージだった。これ程近くまで来ていたのに、広場や公園の存在を知らなかった。魅力的なステージイベントを増やすなど、知名度を上げる工夫をしなければならない。

(委員)

- 青少年科学館前にも、イベントスペースをつくってはどうか。
- 広いものを小刻みにつかうことはできるが、小さいスペースを活用するのは難しい。広ければ、その中のレイアウトはいくらでもできるため、「汎用性」を意識していきたい。

(最後に：事務局)

- 次回の会議は 11 月上旬～中旬を予定している。

以上